



今なお世界中を震撼させている新型コロナウイルス感染症。この一年は、これまでずっと“あたりまえ”だと思っていた日常を変更せざるを得ない状況に誰もが戸惑い、不安を抱きながらの生活となりました。その一方で“あたりまえ”のことができていたこれまでの生活が、どれだけ有難いことだったのかに改めて気付くことができました。そして、今この瞬間も大切な人の命を守るために、多くの方が尽力をされていることに感謝するとともに、私たちはこれからも手洗い、うがい、マスク着用、換気、3密を避けるなど、この一年で知り得た情報を今一度思い起こし、一人ひとりができることを徹底継続していかねばならないと思っています。

園では、この一年、これまでも増して子ども達の健康・安全を最優先に生活してまいりました。保護者の皆様にもご家族全員で検温等にご協力いただきありがとうございました。お陰を持ちまして、本日2学期の終業式を迎えることができました。心から感謝申し上げます。

また、変更を余儀なくされた様々な園行事に関しましても、(最悪の場合中止も視野に入れながら)私たちはどのようにしたら安全にできるのかという観点の下、全職員で知恵を出し合いできる範囲で開催してまいりました。保護者の皆様からはご理解や温かい言葉をかけていただき本当に有難く思っております。まだまだ先の見えない状況を鑑み、今後もお子様の成長をご家庭と共有していくために、動画配信等の更なる充実を含め、より良い情報提供に努めてまいりたいと考えております。

この一年、園の活動に関わっていただきました全ての皆様に感謝し、来る年がただただ平穏な年となりますことを心から願っております。どうか皆様よいお年をお迎えくださいませ。



①

着替える・靴を履く
歩く・荷物を持つなど
自分でできることは
自分でやっていますか？



②

ひとりで
もてるよ



③

子どもの“自分で”を園とご家庭とで共に支えていきましょう

私たちは、園生活の様々な場面において、子どもたちの“自分でやりたい”“自分でやってみよう”という気持ちが感じられる行為を目の当たりにします。そのたびに嬉しさが込み上げてくると同時に、こうした『自立の芽』をさらに伸ばしていくのは、人的環境である私たち大人の関わり方次第だと痛感します。子どものやりたい気持ちを認め、満足できるまで傍で見守っていきましょう。

★【ひとりで歩いてみよう！…上記写真①】

7月中旬頃、お母さんに抱かれて登園していた満3歳組のH君。7月下旬のある朝カバンを背負い、お母様と手をつないで歩いて登園する姿を見かけました。どういきっかけて歩いて登園することになったのか尋ねてみると、車の中では抱っこをせがんでいたとのことでしたが、車から降りたら自分から歩き始めたということでした。我が子の自発的な一歩を信じ『いつかはひとりで・・・』という願いを込めて、「きょうはここまでね。」等と親子で抱っこの距離を決めて関わってこられたお母様の思いが、お子様の“自分で”に繋がったような気がしています。

★【ひとりで持ちたい！…上記写真②③】

1歳のH君は、朝から自分の荷物をひとりで手に持ち登園してきます。お兄さん、お姉さんの影響もあるかと思いますが、自分の荷物は自分で持ちたいという気持ちを周囲の人たちがしっかりと受け止め、温かく見守っていることでその気持ちが行為に繋がっているのでしょう。

《編集後記》「今年は何もできなかったね。」と娘に声を掛ける父親に向かって、「絵本いっぱい読んだじゃない。〇〇は楽しかったよ。」という今年ならではのCMが、私の胸に残っています。物事をマイナスに捉えるか、プラスに捉えるかによって行動も変わってくる、まさにプラス思考は、本園が目指す『ポジティブな羅針盤』の形成につながるものです。今回のようなパンデミックは決して起きてほしくありませんが、家庭でたくさん会話を交わす等、家族の絆・つながりを再確認できる時間(とき)として、この巣籠り年末年始を過ごしたいと思っています。(子育て相談：北村)